

はじめに

趣味と呼べるような趣味はない。質問されたり、アンケートで回答を求められると、「読書」と「音楽」と答える。医学関係のアンケートなら、それに「医学の歴史」を加える。

よく読むのはどんな本かと聞かれても困る。乱読である。あらゆる種類の本を読みとばす。何も予定のない週末には十冊近く読む。自宅の部屋中に本が散らばっているし、書庫と称する小部屋には、床から天井まで本が積み上げてある。奥の方へ通るところだけ細く床がみえる。「けものみち」だな、と思う。

平成十六年夏に雑誌『臨牀と研究』を九州大学内で発行している大道学館出版部の古山正史主幹から電話があった。平成十七年に一年間、『臨牀と研究』の「赤ページ」欄を担当してほしい、という依頼だった。

「赤ページ」は二頁のエッセイのコラムで、原則として一名の執筆者が一年間連載す

る。大学教授を退任した方が自分の研究の流れをまとめて示されたり、臨床の大家が長年にわたって経験した示唆に富む症例を執筆されたりしている。

私自身の専門は「外科総論」という地味な領域である。侵襲、炎症、感染、免疫などのレベルを上げて外科手術を支える学問である。ベースキャンプを少しでも高いところに作っていくための研究を進めてきた。最後のアタック隊員に安全に頂上を征服（外科手術を成功）させるために、絶対に必要な領域である。これについてまとめるよい機会と思っただけ、専門的すぎて雑誌の読者層には合わないと考え、断念した。

趣味の読書の対象は、私の場合は正座して読む本ではない。週末以外にも国内外の学会などで移動するとき、大量の小説を読んでいる。そして感想を表紙裏にまとめたり、気がついたところを当該のページに書き込んだり、そのページを折ったりする。あまりの本の多さに置き場所がなくなり、一部処分しようと古本のチェーン店に持ち込んだが、ほとんどが「このような本は買えません」と断られたほどの書き込みだ。

いろいろ考えたが、「赤ページ」では私の読んだ本の中で誰にでも面白いと思え、しか

もあまり知られていない小説を推薦し、それに最近の医学の進歩を加えるシリーズとすることにした。

移動中に眠ってしまわないように読む本となると、ミステリーが多い。数百枚の小説の内容をまとめ、医学の進歩を加えても原稿用紙九枚以内となると、休日まるまる一日がかりの仕事になるだろう。とくにミステリーでは、ネタバレにならないよう、どこから省略するかが問題となる。困難な作業になりそうだが、それだからこそやってみようと決心した。

一年通してこの方針のつもりだったが、途中で二回ほど舵を切りなおした。連載をはじめてしばらくして、友人、知人、あるいは知らない方から「大変面白いが、結末がどうなっているのか教えてほしい」「注文してもなかなか手に入らず、イライラする」「本の後半のコピーを送ってくれないか」などという注文を数多く受け取った。そこで後半を省略しなければならぬミステリーをやめ、終わりまで書ける本を紹介することにした。これが第一の方針転換である。ただししばらくすると、やはり面白いものが書きにくい。そこで

また元に戻したりしている。

第二は読者層を医師と考え、毎月医科学の進歩を取りあげてきたが、お手紙の質問をみると、かなりコメディカル、とくに看護師の読者がいることに気付いた。そこで医科学の進歩から、広く最近の医療の進歩、医療体制の変化も取りあげることにした。

幸い平成十七年の分が好評で、古山氏から再登場を依頼され、平成二十一年にも一年間担当した。執筆の方針は前回と同じで、「ベストセラーでなく、周囲ではあまり話題にならないエンターテインメントを紹介し、それに関連した医学・医療の最近の進歩に触れる」こととした。そして「これを本購入の手引きとしている」というお手紙に答えるべく、さらに広い範囲のエンターテインメントを取りあげた。

最近いろいろな会の後の懇談会で、この「赤ページ」の話がかならず出る。その場ではじめてきいて、読みたいといわれた方には別刷のコピーを作り、お送りしていたが、幸いなことに、このたびこの二年分をまとめる機会を得た。

本書では、まとめた内容から取りあげた作品を二つに分類した。Ⅰには結末まで明らかになっているもの（ミステリー以外）、あるいは作者が結末以外の部分を重視して執筆していると考えられるもの、したがって結末がある程度まで想像できてしまうもの、を集めた。一方、Ⅱはミステリーで、ネタバレにならないようにまとめたものである。そのため興味を持たれた方は、本を手に入れて頂かねばならない。

ただし医学・医療の進歩に関連した部分を一段下げて組んでもらったので、Ⅰでは一般の読者が「読書案内」として医学・医療の部分をとばして読んでも、十分楽しめる形式にしてある。逆にⅡではミステリーとは無関係に一段下げてある医学・医療の部分だけ読めば、その領域の最近の進歩が分かるように工夫した。もちろん著者としては全部読んで頂きたいのであるが。

エンターテインメントと医学・医療の進歩とを結合させるといふ著者の試みをご理解下さり、多くの読者がこのような新しい形式のブックレビュー『私の読書案内』を受け入れて下されば、望外の喜びである。